



県環保衛連



県連HP

第23号

発行日 令和4年3月31日
 発行者 富山県環境保健衛生連合会 会長 五十嵐 務

題字 五十嵐 務

第66回 富山県環境保健衛生大会



県知事表彰



会長表彰



会長感謝状



小中学生 ポスター・壁新聞表彰

第六十六回富山県環境保健衛生大会開く

「環境にやさしく、健康は生活習慣から」をスローガンに富山県環境保健衛生大会が、令和三年十月二十四日(日)午後一時三十分より射水市アイザック小杉文化ホール「ラポール」で開催された。新型コロナウイルス感染防止のため、座席は一席空けて座り普段の半数の開会となった。

演台はアクリル板で囲まれ、その中で五十嵐務会長の開会のことば(別掲)があった。続いて富山県知事(知事代理・木内哲平厚生部長)の挨拶があり、次に地元開催市である夏野元志射水市長から歓迎の挨拶があった。表彰式では、県知事表彰として、永年環境保健衛生に尽力された個人二氏と二団体の表彰があった。次いで環境保健衛生連合会長表彰として、個人の部で十八名団体の部で六団体の表彰があった。また永年に亘り連合会の役員を務められた二氏に感謝状が贈られた。

小中学生から応募のあった「地球温暖化防止活動に関する優秀壁新聞・ポスター」の部では、壁新聞の部で九名の小学生、ポスターの部で十五名の小・中学生の表彰があった。

表彰式の最後に受賞者を代表して射水市環境衛生協議会の津田義信氏の謝辞があった。

次に来賓から富山県議会議長代理武田慎一副議長、石黒善隆射水市議会議長の祝辞があった。

休憩をはさんで、射水市の二氏から活動発表があった。

終わりに大会宣言案が串田伸男射水市環境衛生協議会副会長から提案があり、全会一致で承認された。続いて松丘弘光射水市環境衛生協議会会長から閉会の挨拶が



あり散会した。

なお、次年度の開催は高岡市となった。

【五十嵐会長あいさつ】要旨

今年度の事業計画では、環境の面では、昨年十二月に食品ロス削減全国大会が本県で開催されたことを受け、食品ロスの削減について重点事項として取り組んでいくこととした。その一環として、地区でのフードドライブの推進につながることを期待した。本日、受付近くでフードドライブの開催を実施した。

重点事項の「美しい富山湾の保全活動」の推進は、「みんなできれいにせんまいけ大作戦」や地域での清掃活動は、ごみの海への流出を防ぐ活動で、美しい富山湾の保全に大きくつながる。SDGs Goal4の「海の豊かさを守ろう」の目標そのものの活動であり、今後も熱意をもって取り組んで参りたい。保健衛生の面では健康寿命を伸ばすための取組みが重要であり、昨年度より、人生百年時代に向けて、介護予防であるフレイル対策の推進を掲げた。フレイル対策には、「体力・栄養・社会参加の推進」の三点が大切で、各市町村事業のウォーキング教室や減塩の推進や野菜の摂取量を増やす活動、清掃活動などは、それぞれ、体力・栄養・社会参加の推進の活動であり、正にフレイル対策となっており、我々の活動の活性化がフレイル対策の一層の推進につながる。

今日の大会を契機にコロナに打ち克ち、日本一の健康づくり、日本一の環境県づくりをしつかりと皆さんとともに取り組んでいきたい。



開催したフードドライブ

【活動発表 1】不法投棄防止に向けた活動及び布団や毛布など特別収集活動について

射水市大門環境衛生協議会長 林原 克巳
大門地区は射水市の南部に位置し、四地区から成っている。不法投棄抑止については、例年三月下旬に市環境課、射水警察署、不法投棄監視員等で不法投棄が頻発する山間部、庄川河川敷等の不法投棄重点監視地区をパトロールし、現状の実態把握、投棄者の特定・再発防止に尽力している。

「布団・毛布等の回収について」

各家庭で不要になった粗大ごみを安価(有料)で回収、処分し、不法投棄の根絶を目指している。また、一人暮らし高齢者世帯の訪問回収を実施し、「要支援世帯」を地域で支える活動の一環としても取り組んでいる。

【活動発表 2】

環境保全活動報告・海岸漂着物対策について

射水市六渡寺自治会顧問 境 信誓
六渡寺地区は、射水市新湊地区の西部に位置し庄川と小矢部川の間の海岸に面した地区である。三十年程前まで、浜辺の子供たちの元気な声が響き、家族で海水浴を楽しむ微笑ましい姿があった。現在は、海洋漂着物が県下で最も多い海岸と言われている。

二〇〇八年頃から住民の一部の方々が「泳げる海を取り戻そう」を合言葉に海岸の清掃活動を開始、二〇二一年より六渡寺自治会と協働して、現在に至っている。

海岸漂着物は生活ごみがほとんどで海外からのごみは見当たらない。漂着ごみは、風の影響、地理的条件、海岸の現状(海岸浸食防止のための離岸堤などの条件で漂流ごみは六渡寺海岸に集まりやすくなっている。

二〇二一年頃からFMとやまの呼びかけなどで、多くのボランティア・団体が海岸清掃を行っている。二〇二二年七月四日「みんなできれいにせんまいけ大作戦」では、市長をはじめ地元小学生や各種団体が参加して海岸清掃を行った。今後交流人口の増加に伴う「まちづくり」を創造していく必要がある。



第1回 環境専門部会研修会

「河川ごみ対策視察」研修会

日 時 令和三年十一月四日(木)

九時三十分～十四時三十分

参加者 十九名

視察場所 庄川合口堰堤、小牧ダム、庄川視察

用水のごみ回収施設(砺波市中野)

昨年度に引き続き「美しい富山湾と河川を目指して～河川ごみ対策の現状から学ぶ～」と題して開催された。新型コロナウイルス感染症の懸念もあり開催が危ぶまれたが、県内各地域から多数の参加があり、大変盛況となったのは喜ばしいかぎりである。

研修会は砺波市庄川町の水記念公園に集合し、林信義環境部長から開講の挨拶があり、庄川合口堰堤の視察を皮切りに、庄川の河川ごみを視察するため小牧ダムへ出発した。

合口堰堤では、合口堰堤のできるまでの過程や流入するごみの対策について説明を受けた。人が出したようなごみはほぼ無く、枝葉が多く見られた。また、小牧ダムから大牧温泉へ遊覧船で移動しながら視察を行ったが、同様の印象を受けた。



合口堰堤



用水のごみ回収施設

午前の視察後、水記念公園にて昼食をとりながら、環境部会の次年度のあり方や様々な地域の活動について意見交換をする等、今後の活動への意欲や新たな知見を得られた。

午後には砺波市内の合口堰堤下流の用水にあるごみ回収施設を視察した。その施設は用水のごみを回収すべく、主流を分岐し、効率よくごみを回収する仕組みがなされていた。そこで回収されたごみも合口堰堤と同様に枝葉が多い状況であった。

海にあるプラごみ等は、下流域の人間の生活域から海へと運ばれていることを実感し、日ごろから行っている清掃活動の重要性を改めて認識するとともに、環境への意識が高まる有意義な研修となった。

第2回 環境専門部会研修会

日 時 令和三年十二月八日(水)

十三時四十分～十五時四十分

会 場 富山県民会館

参加者 十七名

演 題 「とやまエコ・ストア連絡協議会の活動について」
講 師 県生活環境文化政策課 松田愛理主事

○とやまエコ・ストア制度

当協議会は二〇〇八年、県下全域でレジ袋無料廃止の取組みを開始。



これは全国初で二〇二〇年から全国一律でレジ袋の有料化がスタートした。二〇一三年、さらなるエコライフの定着を図るため全国初の「とやまエコ・ストア制度」を創設。これは、①レジ袋無料配布の廃止②資源物の店頭回収③適正な店舗温度設定④プラスチックトレイの削減・転換等の四つの項目を積極的に取組む店舗を登録する制度で、現在登録店舗数は六九社、一〇六四店舗、六商店街となっている。

二〇〇八～二〇二〇年の十三年間にレジ袋削減枚数が約十九億枚となり、これは石油の削減量・ドラム缶約十七万五千本分に匹敵。また、現在県民のマイバッグ持参率は九五%と全国トップとなっている。なお、有料になったレジ袋代金は、県内市町村の環境財団等に寄付され、地域の環境保全活動等に活用されている。

○プラスチックトレイ削減・転換

スーパー等で大量に使われ、大量に捨てられているプラスチックトレイが環境悪化を招いている。県内で発生する海岸漂着物の八割が県内で発生したものであり、その多くをプラスチックが占める。

削減方法としては、ばら売り、袋売り等があり、転換方法としてはバイオマストレイや紙トレイの使用がある。スーパー三店舗でノートレイ商品と従来商品との比較販売の結果、①肉類の真空パック販売はノートレイが売行きよく、②果物の袋販売はほぼ同じで、③総菜の紙袋販売は紙袋が割高のため従来品の売行きがよかった。

トレイ削減に関する実態調査では、消費者の九割以上が野菜、果物はノートレイでもOK。七割がプラトレイ転換に伴うコスト増に協力できると回答。全国と比較しても県民の協力意識は高いといえる。

ほかに、令和四年四月一日施行予定のプラスチック資源循環促進法についても説明があった。

講話終了後、南砺市が開発した「なんとSDGsボードゲーム」を体験した。このゲームは、持続可能な「SDGs」の十七のゴールを目指してコマを進める双六のようなもので子供から大人まで楽しめる。貸し出すことが可能で、申し込みは連合会事務局まで。



健康専門部会研修会

日時 令和三年十一月十四日(日)

九時四十五分～十二時四十五分

場所 とやま自遊館

参加者 三十八名

講演 テーマ「生活習慣病の改善と免疫力アップ」

講師 許鳳浩氏

(医療法人ホスピイー・統合医療研究所)

内容

1 免疫力低下をきたす要因について

免疫力低下をきたす要因

加齢
過度の運動
睡眠不足
不安、ストレス
ネガティブ思考
運動しない
過度の飲酒

2 免疫力アップのために

① 睡眠の効果

健康づくりのための睡眠指針2014

〈睡眠十二箇条〉

② お湯の持つ温熱効果

・NK(ナチュラルキラー)細胞が活性増加する。

↓風邪をひき難くなる。

・蛋白の変性を抑制し、変性した蛋白を修復する。

↓疲労後のリフレッシュや健康増進に役立つ。

③ 運動の効果

〈自分にふさわしい運動を選びましょう〉

映像による「八段錦」

の紹介

④ その他合理的な食事、漢方薬の効果など

※NK細胞・リンパ球の

一種で、体の中でウイル

ルスに感染した細胞や

一部のがん細胞を認識

して阻害する細胞



八段錦とは

八段錦とは、八百年以上前から受け継がれてきた中国発の気功の要素を持つている健康法である。八段錦の意味として、『絹織物の中で最も美しいもの』ということから、「選りすぐられた素晴らしい運動」であることを指している。

体質養生・改善体操である八段錦は合計八つの型からなり、各型ではそれぞれ同じ動作を繰り返して行い、基本的には、一つの動作を一呼吸で行うことが特徴である(例外もある)。

高齢者には、過度な運動が適さないとわれ、その点、高齢者に適している運動と言える。一回十二分ほどの時間がかかる。流れは次のとおり。

ウォーミングアップ(預備式)

両足のかかとをつけ、爪先を少し開くように立つ。

ゆっくりと鼻で深呼吸(腹式呼吸)を数回行い、気持ちを整え、リラクセスする。

持ちを鎮め、リラクセスする。

第一段 両手を天に向けて伸ばし三焦(のどからおなかの部分)を整える

第二段 腕を左右に開き弓で鷲を射る

第三段 片手を頭上上げて脾胃の機能を整える

第四段 体幹を捻って疲労冷えなどを改善する

第五段 上半身を揺り動かして精神安定をはかる

第六段 両手で足をつかみ腎と腰を丈夫にする

第七段 拳を握り、目力を入れて気力を強化する

第八段 背部を上下に揺らして万病を防ぐ

クールダウン(閉式)

両足はそろえたままで、両手を左右に垂らす。ゆっくりと深呼吸(腹式呼吸)を八回行う。



第一段



第二段

新規事業「出前健康講座(南砺市協議会)」

県連合会では、今年度より健康部会研修会で実施してきた内容を希望される市町村に出向いて開催する「出前健康講座」を開始。参加者の募集は、希望する団体で実施し、講師謝金等の経費は、県連合会が負担。

日時 令和三年十一月十九日(金)

午後二時～四時半

場所 南砺市役所三階大ホール

参加者 健康づくりリーダー 四十一名

講演 テーマ「QOL向上を目指すフィジカル&メンタルの養生」

講師 許鳳浩氏

(医療法人ホスピイー・統合医療研究所)

講義①真の健康とは、「健やかなからだ十やすらかなところに宿る」を前提に未病やフレイルについて説明。

②運動・食・マインドフルネス(瞑想や呼吸法など)の取り組み方等。

休憩 胃腸虚弱や冷えに効果のある「健康茶」を飲み比べることができ、好評。

実技 中高年の最適な運動として「八段錦」の紹介。「八段錦」用ユニホームに着替え、呼吸法と共に運動を師範。

中医体質調査票(アンケート)実施

まとめ 健康づくり実践に即立ち、健康意識の普及に大いに期待できる内容であった。

「八段錦」は全員にDVDが配られたこともあり、さつそくサロンで取り入れたという声も聞かれています。



三世代環境衛生活動モデル事業

砺波市「となベジプロジェクト」活動報告

事業の目的・ねらい

青・壮年期からの糖尿病など生活習慣病予防の一環として、血糖値の急上昇を抑えるなどの野菜を食べる効果に着目し、「となベジプロジェクト」と称して、「野菜を食べよう」「野菜から食べよう」運動を展開し、今年度は、野菜を食べることによる健康づくりを幼少期の子供・保護者に対象を広げ、広く推進した。

※ベジ ベジタブルの略称

十月二十六日(火)・ヴァローレ砺波店・二百七名
十一月二日(火)・イオンスタイルとなみ・二百九十六名
一月二十一日(金)・健康センター・十三名

実施主体 砺波市環境保健衛生協議会、砺波市健康セ

ンター

連携団体 ヘルスボランティア連絡会・食生活改善推

進員協議会・母子保健推進員連絡協議会

内容

・ヘルスボランティア連絡会および食生活改善推進員協議会とともに、「となベジキャンペーン」として、スーパー等で野菜摂取推定量測定会を実施し、子供連れ家族も対象に「となベジプロジェクト」を周知啓発し、野菜を食べるきっかけづくりにつなげた。
・母子保健推進員連絡協議会は、子どもの頃からの生活習慣の定着を目指し、乳幼児向けの野菜クイズを取り入れ、体の健康のために野菜を食べることの大切さを伝えた。

参加者の感想

〈大人〉

・となベジプロジェクトの取組みは知らなかったですが、今回、参加してみて、野菜から食べる大切さがわかりました。積極的に野菜を食べようと思いました。かわいいぬいぐるみや大きな野菜のイラストが出てきて、子供も最後まで興味を持って参加できました。

これを機会に、野菜を一口でも多く食べてくれたらいいなと思います。

〈役員〉

・ほとんどの皆さん、特に若い方が野菜の摂取量が不足していると感じました。もつとPRして、市民の皆さんに野菜をたくさん食べていただき、健康になってもらいたいです。

成果

「となベジプロジェクト」をテーマに、スーパーや関係機関、関係団体と連携して取り組み、子供・保護者から大人まで幅広い年代層に、野菜を食べること、野菜から食べることが、糖尿病など生活習慣病予防につながることを周知啓発できた。



ベジチェック測定



乳幼児向けの野菜クイズ

三世代環境衛生活動モデル事業

滑川市「東部小学校クリーン作戦」活動報告

P T A が中心となり各種団体に協力を呼びかけ校区内の清掃を行うもので、地元企業の参加もあり、滑川市の環境美化活動を牽引する事業である。

実施団体名 滑川市立東部小学校 P T A

事業の目的・ねらい

家族が活動を共にしながら、美しい滑川市をつくり、また環境美化や社会奉仕に対する意識の高揚を図る。

期 日 令和三年七月十八日(日)

場 所 高塚海浜公園付近、早月川河口付近

実施主体 滑川市立東部小学校 P T A

連携団体 滑川市環境保健衛生協議会

参加者 東部小学校児童、保護者、教職員、

老人クラブ会員、高塚・三ヶ町内会員、

新川土木センター職員、

(株)ロキテクノ社員 合計約三百名

内容

午前六時に高塚海浜公園付近、早月川河口に集まり、午前七時まで海岸清掃を行った。ごみは燃えるもの、燃えないものに分け、スプレー缶等注意を要するものは別にして集めた。集めたごみは当日中に収集業者が回収を行った。

参加者の感想等

〈小学生〉

・海岸がきれいになって良かった。

〈大人〉

・子供たちが親や祖父母と一緒に楽しそうにごみ拾いをしていたので良かった。

成果

・多数の参加者により、短時間に多くのごみが集まった。ごみ拾いを通して、美しい海岸を守ることの重要性を三世代に伝えることができた。

・小さな時から、自分たちの親が地域の中心として、地域を巻き込んだ清掃活動を継続している姿や地域の姿に触れ続けて育つ子供は、大人になった時に生きる貴重なSDGsの事業になっていると言える。



みんなできれいにせんまいけ大作戦

「コロナ禍に負けず」

コロナ禍の中、今年度も「みんなできれいにせんまいけ大作戦」が六月から九月に実施された。感染者数の増加の時期に重なった三市が中止され、十二市町村での実施となった。

参加者数は、二万二百人ほどの参加があり、お陰で富山が本当にきれいになり、ありがとうございます。また。

これからも、河川の上流から下流まで、すべての人がごみの河川や海への流出を防ぐ取組みを一層推進し、次の世代に「美しい富山湾」を引き継ぎたいと願うものです。



7月4日 黒部市荒俣海岸清掃大会



7月4日 射水市



8月8日 舟橋村



7月3日 高岡市

地球温暖化防止に関するポスター

最優秀賞



小矢部市立石動小学校
5年 瀧谷 桃



小矢部市立石動小学校
6年 南 千尋



南砺市立南砺つばき学舎
7年 前川 奈緒



入善町立入善西中学校
2年 梅川 珠美礼



射水市立射北中学校
3年 海老江 里音

新規事業

青少年環境学習会(「清流王国とやまの水守り隊」)

令和三年度の新規事業として、国立立山青少年自然の家・県環境政策課・とやま環境財団の協力を得、重点事項の「富山湾の環境保全」の取組みの一環として、次のねらいで実施した。

「海岸漂着ごみ、海洋ごみについて体験を通して学習することで、海洋ごみ問題について知識を広め、また、海の豊かさや恵みを体感する活動を通して、一層、次の世代に美しい富山湾を引き継ぐ活動に寄与する意欲や態度の向上を図る。」

参加者 小学校五・六年生 二十一名
共催 国立立山青少年自然の家・富山県(公財)とやま環境財団・富山県環境保健衛生連合会

1日目

- ① 開講式・きときと市場駐車場
- ② 庄川河口(右岸)視察
- ③ 六渡寺海岸視察・講話(地元自治会)・ゴミ拾いボランティア・流木・プラごみクラフト用の材料集め
- ④ 握りずし体験(新湊すし塾)
- ⑤ 漂着ごみ分別調査・マイクロプラスチック調査(氷見市海浜植物園)
- ⑥ 魚釣り体験(氷見漁港)
- ⑦ 「用水ごみ回収機」見学(砺波市中野)

2日目

- ① 漂着ごみ(流木、プラごみ)でクラフト
- ② まとめ時間



握り寿司体験



ゴミ拾いボランティア



魚釣り体験



漂着ゴミ調査分別調査



漂着ゴミでクラフト



用水ごみ回収機見学

表彰

○第六十六回 富山県環境保健衛生大会

日時 令和三年十月二十四日(日)

会場 アイザック小杉文化ホール ラポール

富山県知事表彰 (厚生部門功労)

個人 井上 文男 富山市環境保健衛生連合会理事

加納 昌之 高岡市環境保健衛生協会副会長

団体 堀川南環境保健衛生協議会 (富山市)

東部女性ネットの会 (小矢部市)

県連会長感謝状

前常任理事 大島 学 富山市環境保健衛生連合会

前常任理事 杉本 勝美 高岡市環境保健衛生協会

県連会長表彰

個人

長澤 邦夫 (富山市) 坂上 幸義 (富山市)

沼 満保 (富山市) 村藤 幸作 (富山市)

坂下 外治 (富山市) 松本 勝彦 (富山市)

平野 茂樹 (高岡市) 小河 靖男 (高岡市)

津田 義信 (射水市) 放生 寛治 (氷見市)

松永 妙子 (砺波市) 島田 博子 (砺波市)

青山 久子 (砺波市) 沼前とも枝 (南砺市)

川合多美子 (南砺市) 窪田 淑子 (南砺市)

吉本 幸江 (南砺市) 山口希代子 (小矢部市)

団体

二上地区環境保健衛生協議会 (高岡市)

村椿地区環境衛生組合 (黒部市)

氷見市健康づくりボランティア (氷見市)

連絡協議会朝日丘地区

井口地区老人会 (南砺市)

福野南部玉成花壇愛好会 (南砺市)

東太美福寿会 (南砺市)

○全国大会表彰

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰

生活環境改善功労者 山藤 正治 (富山市)

杉本 勝美 (高岡市)

生活環境改善模範地区

針原新町連合町内会 (富山市)

富山県食品ロス・食品廃棄物削減優良活動表彰

南砺市環境保健協議会

日時 令和三年十月二十七日(水)

会場 県民会館バンケットホール

氷見市環境保健衛生協会

でフードドライブを実施

◎事業の説明

食べられるにもかかわらず捨てられてしまう「食品ロス」が日本では年間約六四三万トン生じているとの推計がある。これらの食品ロスの焼却処理には燃料が使われることから、地球温暖化にもつながっている。さらに、富山県の調査によると、県内で排出される食品ロスのうち、約六十パーセントにあたる二・七万トンが家庭から排出されている。このことから、氷見市環境保健衛生協会と氷見市連合婦人会では食品ロス削減事業、地球温暖化防止事業として、家庭で使いきれない食品を集め、食品を必要としている団体等に寄付する活動「フードドライブ」を実施した。第一回目は令和三年七月に試験的に、そして第二回目を令和四年一月に行った。

◎事業の内容

実施日時 令和四年一月二十日(木)

二十一日(金) 九時～十六時

会場 氷見市役所一階 地域協働スペース3
主催 氷見市環境保健衛生協会・氷見市連合婦人会

寄付食品数 八三八点

寄付食品量 約一七九キログラム

集まった食品は、氷見市社会福祉協議会を通して氷見市内の子ども食堂や、食品を必要としている団体等に寄付された。

◎本事業を終えて

実施日は両日ともあいにくの雪模様の中、老若男女を問わず多くの方々に食品をご寄付いただき予想よりも多くの食品が集まった。個人の方からのご寄付がほとんどだったので、お互い相手の顔が見える活動となり、また、寄付いただいた際に良い取り組みだと声をかけていただいたことで、やりがいを感じて運営することができた。しかし、「フードドライブって何?」「もっと早く知りたかった」という声も多数いただいたので、今回の反省を生かしながら今後も継続してフードドライブを実施していきたい。



第六十四回定期総会報告

令和三年五月二十一日に開催予定の第六十四回定期総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、常任理事・理事九十五名に議案書と書面議決書を送付し開催した。返信のあった書面議決書は、八十二通有り、次の四議案全てが承認された。

【第一号議案】 令和二年度事業報告並びに収支決算報告及び会計監査報告に関する件

【第二号議案】 令和三年度事業計画(案)並びに収支予算(案)に関する件

【第三号議案】 第六十六回富山県環境保健衛生大会の開催に関する件

【第四号議案】 令和三年度本会役員(案)の承認に関する件

令和三年度役員

【会長】	五十嵐 務	(富山地区富山市)
【副会長】	麦島 紀長	(富山地区富山市)
〃	林 信義	(高岡地区高岡市)
〃	尾田 喜則	(県東部地区A入善町)
〃	吉田 裕造	(県東部地区B滑川市)
〃	松丘 弘光	(県西部地区A射水市)
〃	浦出 義一	(県西部地区B南砺市)
【専務理事】	浦出 義一	(副会長兼務)
【監事】	石瀬 義明	(富山地区富山市)
〃	井上 和正	(県東部地区上市町)
〃	白沢 富治	(県西部地区小矢部市)
【常任理事】	白江 祐一	(富山市)
〃	長澤 邦男	(富山市)
〃	山森 潔	(富山市)
〃	村上 公生	(富山市)
〃	林 泰彦	(富山市)
〃	坂上 幸義	(富山市)
〃	駒井 義次	(高岡市)
〃	蔵 伊佐夫	(高岡市)
〃	加納 昌之	(高岡市)
〃	伊東 高志	(黒部市)



撮影 7月1日

富山市は、プラスチックごみの海洋流出を防ぐため、市内三カ所の用水に網場を設置しごみを回収する実証実験を五月〜十一月に行った。八号線中島交差点近くのがめ川の網場は、最もごみの回収量が多く、週二回の回収では、ペットボトル、缶、トレイ、葦など驚くほどの量が毎回回収されていた。

富山市「網場」の取組み

【常任理事】	谷口 和子	(入善町)
〃	佐田 正秋	(朝日町)
〃	長勢 静雄	(魚津市)
〃	高橋 眞琴	(滑川市)
〃	久田 良光	(上市町)
〃	広嶋 寿雄	(立山町)
〃	萩原 勉	(舟橋村)
〃	串田 伸男	(射水市)
〃	林原 克巳	(射水市)
〃	放生 寛治	(氷見市)
〃	中島 勇	(砺波市)
〃	大塚 千代	(南砺市)
〃	南 昭仁	(小矢部市)

「ファボーレ」ポスター」並びに「壁新聞」展示会

「とやま環境フェア」が中止になり、ポスター・壁新聞の展示会ができなくなったため、十一月十一日〜十七日の一週間、富山市のファボーレ二階の広場で展示会を開催した。

今年度は、応募が多く、小学校の壁新聞の部は五三点、ポスターの部では、新たに新設した小学校五・六年の部に二〇九点、中学校の部は一三三四点、合計一六五六点の応募があり、会場で優秀作品四七点(最優秀賞八点、優秀賞一〇点、佳作二九点)を展示するコーナーを出展した。



編集後記

コロナウイルス感染拡大の中、ようやくワクチン接種が開始される二回の接種を済ませてから九月より急速に減少し始めました。秋の総選挙の結果、岸田文雄さんは、第一内閣総理大臣として、日本の舵取りという重責を担うことになりました。

明るいニュースでは、コロナ禍で開催された東京オリンピック・パラリンピックで日本人選手が多数の「金」メダルを獲得したほか、大谷翔平選手が大リーグMVPを満票で受賞、将棋の藤井聡太五冠の活躍。又、北京冬季オリンピックでは、日本選手が勇氣と感動それに見えやりに見せてくれた五輪の中、パラリンピックでは、ノルデックスキー距離男子20キロクラシカル立位で、県勢の「川除大輝」さんが金メダルを獲得し県民に大きな希望と感動を与えてくれました。

コロナウイルスの感染も終息になろうとしている時に新たな新変異株、オミクロン株が世界中で猛威を振るい、急速に進んでいることから、十分な予防効果を得るには追加接種が不可欠とみられ、三回目のワクチン接種が始まりました。

コロナ禍の状況中、思うような活動ができない年でもありましたが、今回、青少年環境学習会を企画し多くの児童が参加し漂着ゴミ・マイクロプラスチック調査の環境問題について勉強しました。環境委員もたくさんマイクロプラスチックの存在を知り驚きました。

第二十三号をお届けします。新しい年を迎えて、一日も早くコロナ禍が収まり平穏な日常が戻ってくることを願っています。(尾田 記)